

尼崎 21 世紀の森構想エリアにおける「共創」による まちづくりの推進について

1. 背景

■尼崎 21 世紀の森構想 先導期、展開期を経て、これから概成期へ

- 先導期（10 年）：拠点地区の整備、緑化の推進、中央緑地での森づくり
- 展開期（20 年）：拠点地区を中心とした森や運河の活用、参画と協働の推進
- 概成期（50 年）：これまでのハード・ソフト両面での実績、参画と協働の取組を通じて築いてきた主体間のつながりを生かしながら、森構想エリアの新たな価値を多様な主体が共に生み出す段階へ

■「参画と協働」から「共創」へ

- 行政計画に基づく取組に多様な主体が加わり一緒に進めていく「参画と協働（Participation and collaboration）」から、発想段階から多様な主体とともに考え、新たな価値やアイデアを生み出す「共創（Co-creation）」という考え方への移行

■森構想に基づく取組の現状

- 森（中央緑地等）、運河（北堀運河キャナルベース等）、まち（工場、エリア各地）、それぞれのフィールドで各主体が取組を進めるとともに、主体間で連携した協働の取組を実施している
- 森構想 20 年で蓄積されてきた取組実績、主体間のつながりをいかして、生物多様性保全、環境学習、観光振興、企業連携などといった様々な取組へと展開しつつある

2. 共創によるまちづくりの推進の目的

①目的

- 森構想のテーマである「森と水と人が共生する環境創造のまち」の実現に向けた将来像や取組イメージを、森構想にかかわる多様な主体とともに考え、形にして示すことで共有し、ともに取組んでいく機運を高める。

②共創によるまちづくりの推進イメージとして示す内容（案）

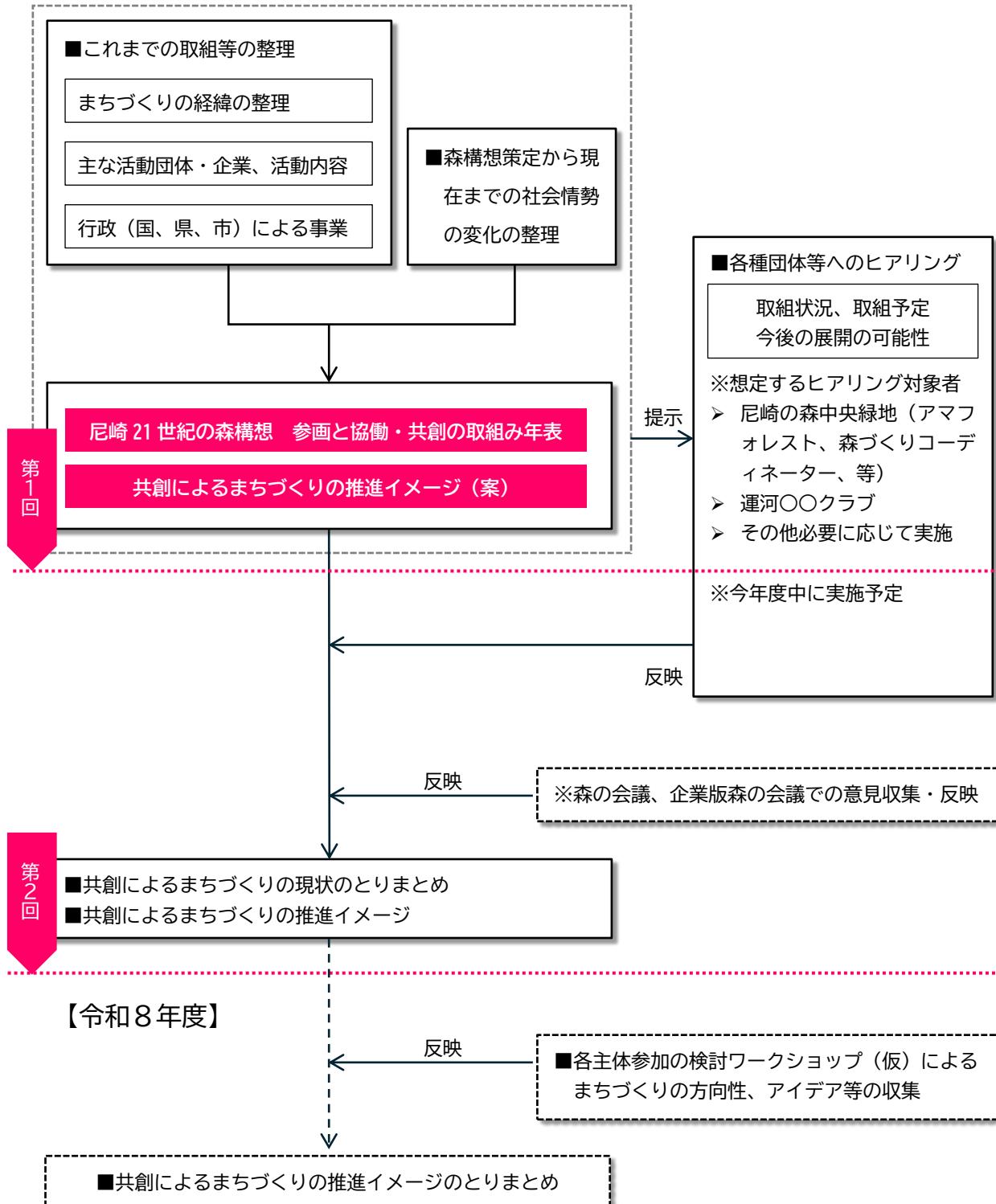
- 共創の取組を進めていくためのプラットホームのあり方
- 森構想にかかわる主体やプロジェクト等の多様なつながりのイメージ
- 継続的に新たな価値やアイデアを生み出すしくみづくり 等

3. 本協議会における検討の進め方

令和7年度：これまでの取組状況を整理し、共創によるまちづくりの推進イメージについて検討

令和8年度：関係者との検討ワークショップ等を通じて共創によるまちづくりの推進イメージとしてとりまとめ

【令和7年度】

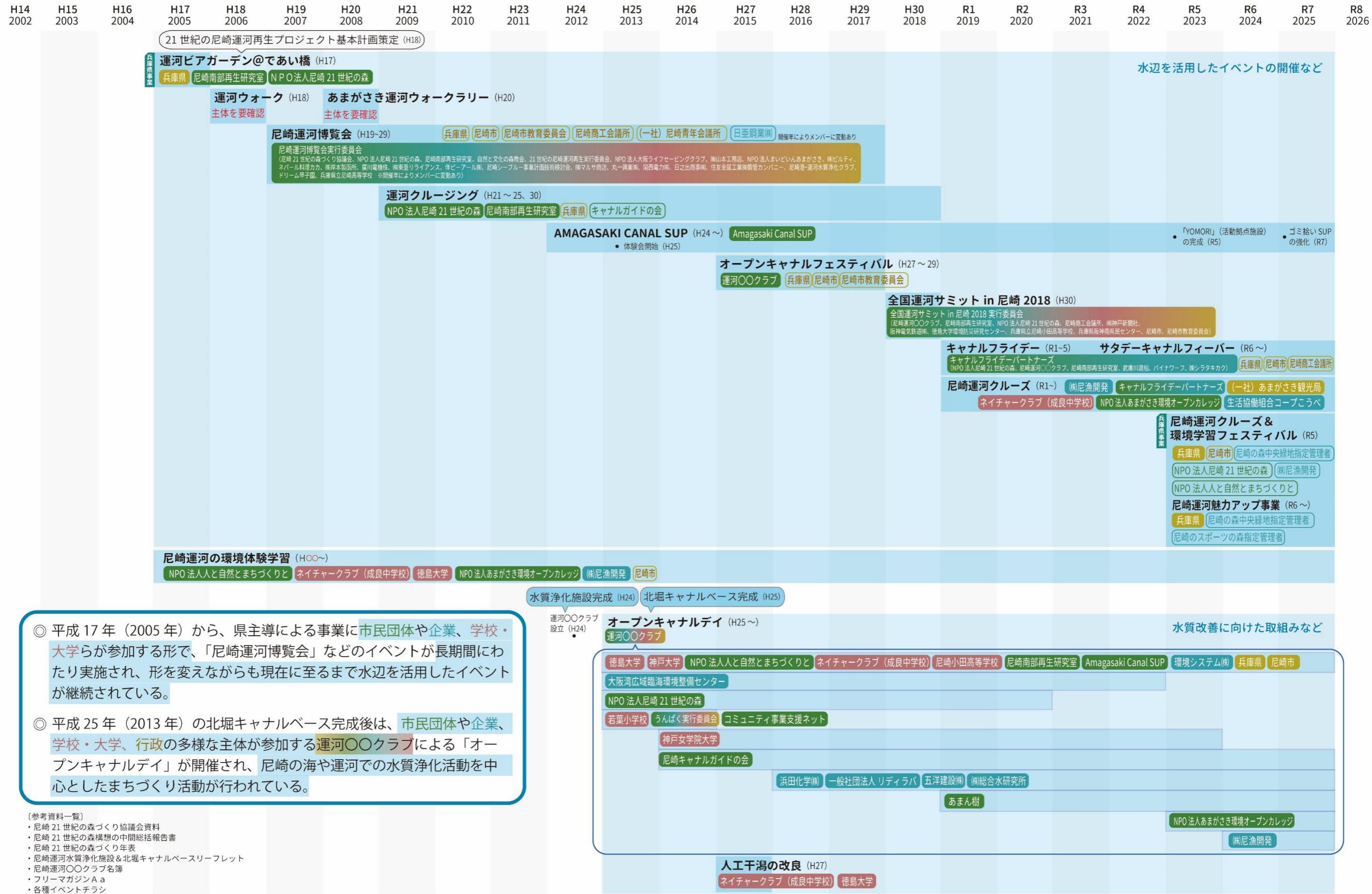


尼崎 21 世紀の森構想 参画と協働・共創の取組み年表 (案)

水辺・運河

主な活動者
イベントの主催など
市民・団体 企業 学校・大学 行政

活動の協力者
イベントの後援など
市民・団体 企業 学校・大学 行政

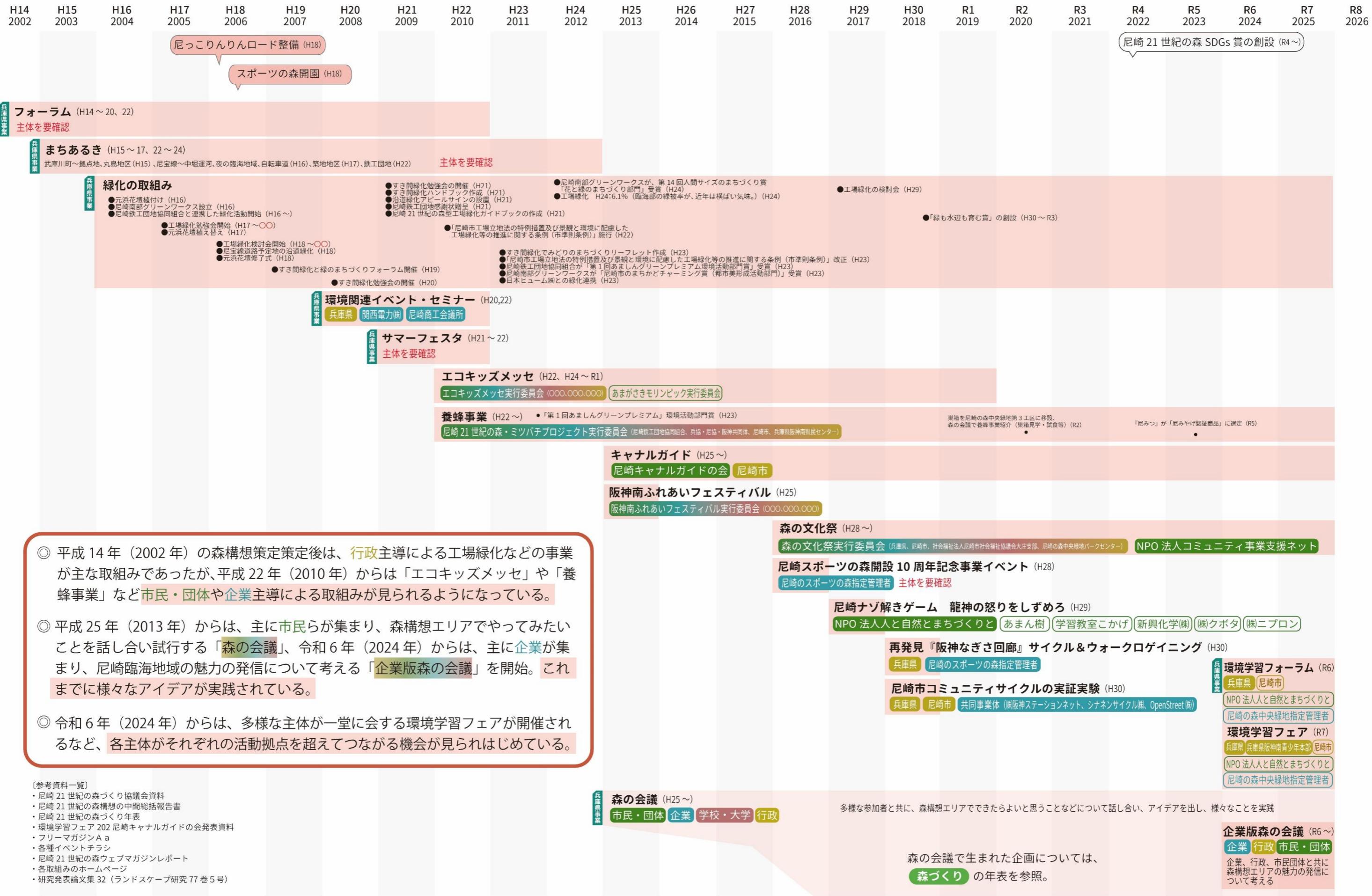


尼崎 21 世紀の森構想 参画と協働・共創の取組み年表 (案)

まちづくり

主な活動者
市民・団体 企業 学校・大学 行政

活動の協力者
市民・団体 企業 学校・大学 行政



5. 共創によるまちづくりの推進イメージ（案）～多様な主体間連携やプロジェクトが広がるイメージ～

- 既存のプラットフォームやプロジェクトをきっかけに、各主体あるいはプラットフォーム同士がつながり、新たなプロジェクトが生まれる。
- 森構想エリアにおけるプラットフォームやプロジェクトの広がりは、森づくり協議会で共有・発信し、取組の展開をサポートする。
- 各プラットフォームは、継続するものもあれば、その時々の状況により必要に応じて生まれ消える可変的なものであり、これに応じて協議会での議題や参加者も柔軟に対応可能な体制とする。

森構想エリア外でのプロジェクトの実施

- 例)・森構想に関する取組のPR
 ・県内各地の県立公園等との連携
 ・運河の再生や活用に取組む他都市事例との連携



森構想エリア外のプラットフォームとの連携によるプロジェクトの実施

- 例)・近隣市等と連携した観光振興
 ・オープンファクトリー
 ・環境学習フィールドとしての受け入れ
 ・みんなの尼崎大学(尼崎市)との連携

協働によるプロジェクトをきっかけとした新たなプロジェクトの実施

- 例)・サタデーキャナルフィーバー
 ・尼崎運河クルーズ・AMAGASAKI CANAL SUP



プラットフォーム間の連携により生まれるプロジェクトの実施

- 例)・森構想エリアを巡るウォーキングイベント
 ・森、海、工場をつなぐ循環ワークショップ



森の会議から生まれたプロジェクトの実施

- 例)・あまがさきモリンピック
 ・こもれびキャンプ 等



尼崎の森中央緑地での森づくりに関するプロジェクト

- 例)・はじまりの森の育成
 ・苗木の里親、森づくり活動、エリア設定、あましん植樹祭等



企業版森の会議から生まれたプロジェクトの実施

- 例)・環境学習フェアでの企業共同企画の実施



プロジェクトをきっかけとした参加者同士の連携による別のプロジェクトの実施

- 例)・企業間連携による新事業の実施
 ・企業と学校の連携による環境学習の実施

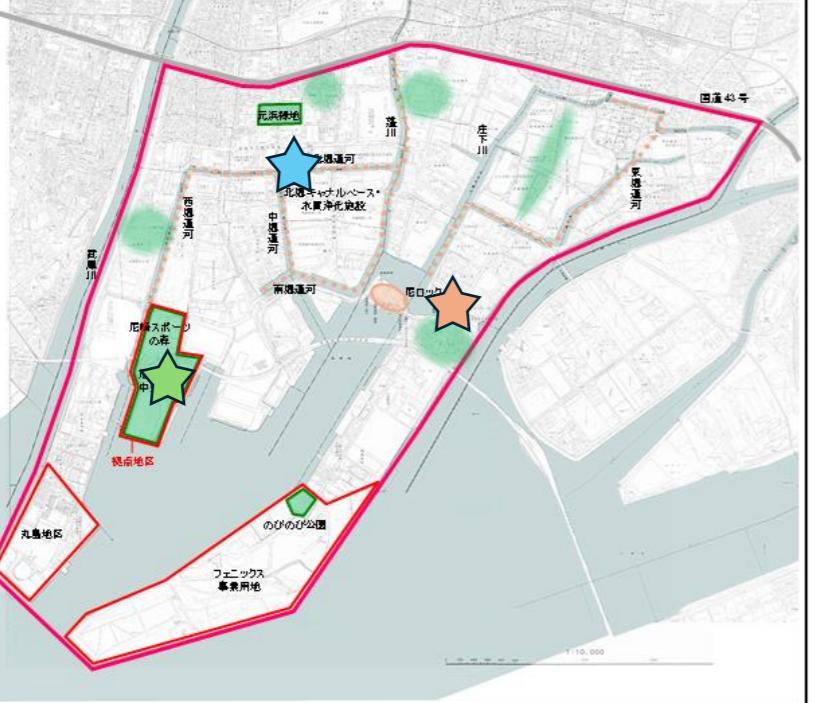


②共創によるまちづくりの取組イメージ

当初～（イメージ）

- 尼崎の森中央緑地において、森づくりに関する取組を継続的に実施。
- 北堀キャナルベースを中心に、運河の利活用に関する取組を継続的に実施。
- 企業による敷地内緑化（県民まちなみ緑化事業の活用、すきま緑化等）に関する取組を実施。

 森構想エリアの特性をいかした協働による活動等



拠点施設（中央緑地や北堀キャナルベース）を中心に共創の取組が展開され、森構想エリア全体では限定的。

現在（イメージ）

- 森（中央緑地）と運河が連携し、各フィールドで活動している各主体の共創によるイベント等を実施（運河魅力アップイベント等）。
- 企業版森の会議を通じて、企業間連携による取組を実施。

 森構想エリアの特性をいかした協働・共創による活動等

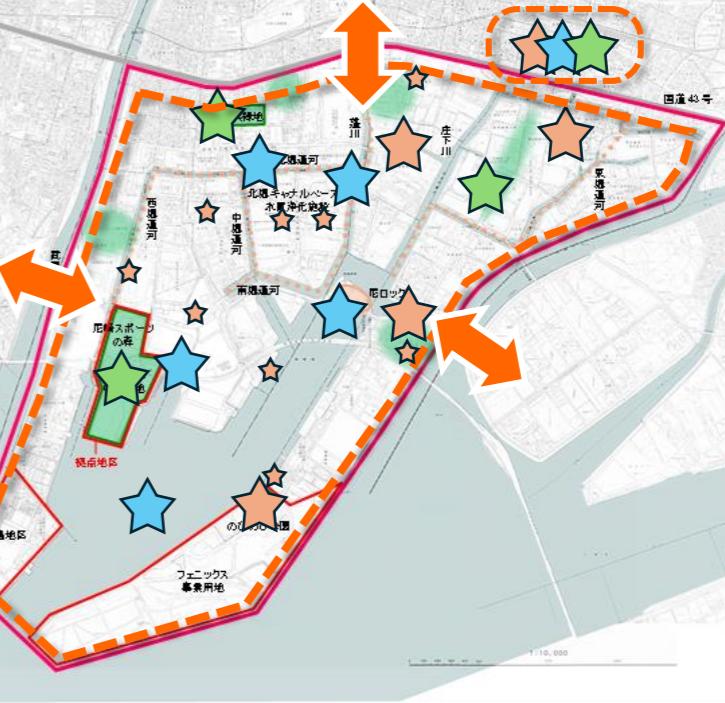


森と運河の連携や企業連携による取組が実施され、共創の取組が森構想エリア全体へと広がる兆しがみられる。

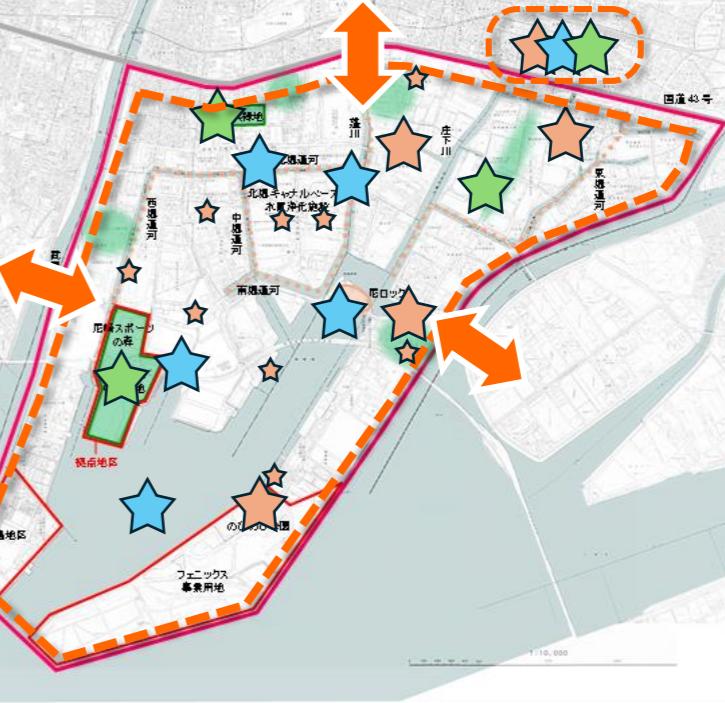
将来（イメージ）

- 森、運河、まちといった多様なフィールドをいかして、共創の取組が森構想エリアの各地で実施され、さらには森構想エリア外へと取組が広がっている。

 森構想エリアの特性をいかした共創による活動等



森構想エリア内外で連携した活動等



多様なフィールド・主体が連携し、森構想エリアの各地及び森構想エリア外へ共創の取組が広がる。